



湾岸・アラビア半島地域ニュース

オマーン・バハレーン：ガルフ航空からのオマーンの撤退 (5月6日付現地報道)

1. オマーン側の報道：

- (1) 5月5日、オマーン政府がガルフ航空(Gulf Air)からの撤退を決定したのに伴い、バハレーン政府が同航空の所有権を全面的に獲得することになった。同決定は、バハレーンを訪問したマッキ・オマーン国家経済相兼財務・エネルギー評議会副議長からサルマーン・アル・ハリーフア・バハレーン国王代理に手交され、併せてマッキ大臣は、カブース・オマーン国王からハマド・バハレーン国王宛のメッセージを伝え、「オマーンは深いつながりのあるバハレーンとの更なる関係促進を強く望んでいる」旨を述べた。
- (2) サルマーン・バハレーン国王代理は、ガルフ航空に対する 33 年間にわたるオマーンの協力に感謝し、兄弟国関係にある両国の経済及び投資を始めとするあらゆる分野での協力強化について再確認した。

2. バハレーン側の報道

- (1) ガルフ航空のコヘージ副会長は、臨時役員会の後、「オマーン政府側が保有する 20%の株式がバハレーン政府に引き継がれ、その結果、バハレーンが同社設立 33 年を経て、全株式を取得することを全会一致で決定した」と発表した。臨時役員会は、ガルフ航空の経営から撤退する旨の公式文書を持参したオマーン政府の要請で開催されたもので、正式な株式譲渡は 6 ヶ月後に行われる。
- (2) ガルフ航空は先週、航路や人員の大幅削減を含む大胆な改革の青写真を公表している。同計画が実施されれば、同社のネットワークは改善され、発着時間の厳守や信頼性向上、及びトランジット時間の短縮などを通して、顧客サービスも改善されるとしている。しかし、同計画の実施には機材及び地上設備への投資が必要となり、3.1 億バハレーン・ディナール (8.25 億米ドル) の初期資本投入が予定されている。

(注：この結果、GCC6 カ国はそれぞれ自国の航空会社を所有・運行することになる。各国の代表的航空会社：サウジアラビアがサウジアラビア航空、クウェイトがクウェイト航空、バハレーンがガルフ航空、カタールがカタール航空、UAE がエミレーツ航空、オマーンがオマーン航空)